

# 令和4年度 乳児院事業報告

## 1. 事業報告の概要

・愛着の視点を持った養育を実践するにあたり、子どもを取り巻く背景を理解し、子どもと保護者及び里親・施設を繋げることを念頭に、養育職員と専門相談職員が連携することで、子どもも家族も一緒に支えていく。

→コロナ禍であったが工夫して里親実習を受け入れることにより、子ども達と里親さんとの深い縁を結ぶことができる実習を数多く受け入れた結果、今年度は特別養子縁組7件を成立させることができた。

・乳児院が地域に根付くよう、外部環境に目を向ける人材を増やす。

→子ども食堂や、ごちゃまぜ食堂へ参加することにより地域住民との触れ合いの場が広がった、またBP1プログラムの実施や育児応援サポーター事業など、地域家庭の支援に入ることにより、各家庭の様々な課題が理解できたことから各社会資源との協働に繋がった。

・フォスタリング機関を充実させ、委託業務拡大による人材育成及び他機関連携強化を図る

→ゆいまーるカフェの実施により里親孤立化の予防的活動として取り組むことにより各職員の支援能力向上に繋がった。

## 2. 財務の視点

### (1) 収入の確保

・入所の定員を満たす。→定員は満たされなかったが一時保護の数は増加している。

・各種補助金の請求(処遇向上・病虚弱・被虐児など)をする。→漏れなく請求できるよう施設長・施設長補佐・経理で確認しながら請求漏れが無いように実施した。

## 3. 顧客の視点

### (1) 入所児童へのサービスの充実

・外出ができない状況での工夫として、個別で過ごす時間を作り、充実させる。

その時には、個々の特性を理解した関りを意識し、子どもが伸び伸びした時間を過ごせるよう、家庭に近い環境を作ることも配慮する。

→各ユニットの報告

<うさぎ・ペンギン>

・『個別・担当』の意識ができた。行事も徐々に増えて良かった。

<くりす・ぼんだ>

・月1回の個別保育ができた、戸外活動やユニット調理も少しできた。

<くま・ぞう>

・個別の時間を優先し合うことができた。

<いちご・さくらんぼ>

・個別保育が平等にできた。散歩にもっと行けたら良かった。

#### <りんご・もも>

- ・ミニトマト、ピーマン、じゃがいもなどを育て、ピーマンのみ育てることができた。

#### <ぶどう・みかん>

- ・自由に玩具を選べれるように置き場所を変えた。 個別保育ができた。
- ・入所後1週間ごろに情報共有会議を実施し、その後アセスメントを入所児全員に行う。  
その際、子ども相談センターの担当CWも会議に入ってもらい情報を共有する。
- 重要と思われるケースはセンターCWに会議に入ってもらい、現場職員の意見も伝えることができた。
- ・養育において、子どもにとっての「最善の利益」についてチームで考え行動する。
- ユニット研修で子どもたちにとっての「最善の利益」を考え実践したことを年度末のユニット研修報告会で報告することから他部署の取り組みも聞く場となり施設全体で考えることができた。

#### (2) 一時保護・ショートステイへのケアの充実

- ・一時保護後は、1～2週間程度一時保護専用居室で一時保護専任職員が養育しながら子どもが慣れるのを待ち、その間にアセスメントを実施する。  
→入所後1週間以内に心理にアセスメントを依頼、ユニットへの移動時の引継ぎも丁寧に実施、その後も心理士と一緒に入所後の変化を見ていくことができた。  
ばななで少人数の関わり観察を実施することで、その後得た情報も含めて詳しくユニットに引継ぎができるようになってきた。
- 住吉区在住の一時保護家庭について、こども相談センターや区役所とも話し合い『育児応援サポーター事業』による継続した見守りを実施した。
- ・ショートステイを利用する母親の状況を相談員が把握し、課題がある親子については引取り後も見守る。

#### (3) 住吉区との連携

- ・BP1プログラムを実施する。  
年に2回受託。実施時は乳児保育園と協働し丁寧に開催する。  
→利用者の皆様の交流や悩み相談の場として良い雰囲気の中で開催することができた。  
また、「はぐあっぷ」の案内を行い個別の気になるケースについても住吉区保健センターに繋げることができた。
- ・子育て支援会議へ参加し、住吉区の現状の把握をする。→継続して取り組んでいる
- ・「こんにちは赤ちゃん支援センター」の設置に向けて、新たな子育て支援のニーズを把握し実践につなげる→BP1プログラム開催時に様々な不安や質疑からニーズを把握している。
- ・ショートステイを利用したときに気になった親子や、入所から引き取りになった家庭を、住吉区保健センターの地区担当や四恩子育て支援と情報を共有し継続して支援する。  
→予防的な虐待防止として取り組んでいる。

#### (4) フォスタリング機関（A型）の継続と委託業務の拡充

- ・より多くの里親を開拓するために、従来の啓発活動やポスター等の作成のほか、担当区域の区社協等地域への連携強化や一心寺や河堀地域の協力を得てユニークな啓発活動を行う

- 里親サロン『ゆいまーる』カフェを月1回実施。多くの啓発活動により里親開拓に繋がる
- ・質の高い里親養育を実現するために大阪市子ども相談センターや家庭養護促進協会と連携しながら、里親研修やマッチング、訪問等にかかる相談員のスキルの向上を図る。またチーム養育の重要性を深く認識し、会議・研修・スーパーバイズ等を相互作用させ、子どもに対する重層的なケアを心掛ける。
- 面談技術や支援技術など高い手技が必要となるため、総論ではなく各論的な研修を受講させることによりスキルの向上を目指し、子どもに寄り添える重層的なケアを実施した。
- ・乳児院の機能や虐待予防の知恵などを載せた広報誌を作成する。広報年1回 ミニは2回)
- 広報誌を年1回配布した、ミニ広報誌は1回しか配布できなかった
- ・広報誌を近隣に配布する。
- 園内の楽しい雰囲気を感じてもらうために色々な行事写真を使用し広報誌を作成した。

## 4. 内部統制の視点

### (1) 労働環境の改善

- ・職員の増員（小規模加算のメンバーは現場で確保する）。
  - 令和4年4月1日～令和5年3月31日の退職数は四恩とみろく合わせて18人、中途採用者は3名であったが、実習生からのアルバイト採用に繋げる方法で最低限の人員は確保。
  - ユニット加算は、四恩学園乳児院、令和5年1～3月は職員不足のため加算が取れなかった引き続き、通年採用活動を実施する。
- ・年休消化率を上げる。
  - 年休の消化率を上げるために、シフトの組み方を工夫し、年度発生の子休の半分を取得するように努力した。
- ・業務分担を明確にし、事務作業の残業の集中を避ける。
  - また、事務作業を勤務時間内に行える工夫をする。
  - 乳児院ワーキングで管理職の業務分担を洗い出し、権限移譲を行うことにより残業の削減を目指した。
- ・現場に残る職員を確保することを優先課題とし、委員会活動・会議時間・研修の効率化を図り継続する。
- ・超過勤務を減らすため、変則勤務ができる学生アルバイトを積極的に雇用する。
  - 学生アルバイト2名を一人としてカウントすることができた。

### (2) 養育の質の向上

- ・子どもの人権を護り、「子どもの権利条約」に沿った養育を浸透させる「子ども憲章」作成や「アタッチメント研修」「不適切なかかわり自己チェック」などの実践を継続する。
  - 子ども憲章委員会で「子どもの気持ち」DVDを完成。
- ・第三者評価の結果を職員全体で共有し、課題ごとに分析し改善を図る
  - 令和4年度中にはできなかった、令和5年度に継続して取り組む。
- ・新規の業務につく相談員を育成する（家庭支援・里親支援・フォスタリング業務・心理）
  - 新規の相談職を配置できた。SVを配置し、各相談職を育成する体制とした。

- ・養育にかかわる各種マニュアルを作成し統一する→できていない
- ・かるがも制度の運営体制を推進する。→各ユニットの希望者数名のみ実施できた。

## 5. 学習と成長の視点

### (1) 研修を体系化し階層別の役割を担う

- ・階層に応じてどのような役割を担うのかを明確にし、スキルを身に付ける。
- ・四恩学園の生涯研修体系に基づいた個々のキャリアデザインを描く。
- ・研修計画を見直し、インプットした学習をアウトプットする機会を作り、さらに自分のものにする  
→各自がキャリアデザインノートから外部研修を受講し『研修報告会』で発表することができている。内部研修も職員が講師役を実施する事から内容の濃いものができている。

## 令和4年度 里親支援機関 結い 実績報告

### 【委託事業】

- (1) 里親制度等普及促進・リクルート事業
  - ア 里親制度等普及促進
    - イ 里親登録前調査の補助
- (2) 里親研修・トレーニング事業
  - ア 基礎研修・登録前研修（施設実習含む）及び更新研修
  - イ 里親登録後研修（里親等スキルアップ研修）
  - ウ 未委託里親等に対するトレーニング事業
- (3) 里親委託推進等事業
  - ア 里親等とのマッチング
  - イ 自立支援計画
  - ウ 大阪市里親委託等推進委員会の運営
- (4) 里親訪問等支援事業
  - ア 里親等への訪問支援・電話相談等
  - イ 里親等による相互交流
  - ウ レスパイト・ケアの調整
  - エ 里親家庭養育協力支援事業（ピアサポーターによる養育支援）
  - オ サポート要員派遣事業

### 【令和4年度 新規里親登録数】

	中央区域（結い）	北部区域	南部区域
令和4年度	15組	16組	5組
令和3年度	15組	7組	5組
令和2年度	10組	9組	6組

- 【市民からの問い合わせ】 50件 ※令和3年度 76件
- 【インテーク面接】 39件 ※令和3年度 48件
- 【マッチング】 15件 ※令和4年度から
- 【自立支援計画の作成】 79件（新規11件・見直し68件） ※令和4年度から
- 【訪問】 185件 ※令和4年度から
- 【レスパイトの調整】 20件 ※令和4年度から

### 【里親相談会及び啓発イベントの実施】

- ・4月26日（火） イオンモール鶴見緑地にて里親相談会 ⇒6組7名
- ・6月11日（土） あべのキューズモールにて里親相談会 ⇒9組11名
- ・6月18日（土） 駄菓子屋しおんにて里親啓発ブースを設置
- ・8月6日（土） イオンモール大阪ドームシティにて里親相談会 ⇒3組5名
- ・8月20日（土） 駄菓子屋しおんにて里親啓発ブースを設置

- ・9月11日（日） クレオ大阪中央にて里親相談会 ⇒2組3名
- ・9月22日（木） 一心寺南会所にてミニパネル展 ⇒7組11名
- ・10月23日（日） 一心寺日曜学校にて里親の普及啓発活動
- ・11月26日（土） イオンモール鶴見緑地にて里親相談会 ⇒2組3名
- ・1月14日（土） あべのキューズモールにて里親相談会 ⇒8組9名



### 【相互交流事業】

- ・まちかどカフェゆいまーる（毎月第2金曜日）  
⇒養子縁組里親の交流・情報交換の場となっている。
- ・ゆいまーるプラス  
7月1日（金） 四恩学園・四恩たまみず園の見学 ⇒3組4名  
11月20日（日） 大泉緑地DE交流会（飯盒炊飯 等）⇒6組18名



### 【その他】

- ・10月～11月 里親宅全戸訪問
- ・大正区や生野区のイベントに出展



### 【基礎研修・登録前研修】

- ・5月15日（日）、22日（日）、29日（日） 一心寺南会所にて実施
- ・8月10日（水）、17日（水）、24日（水） 一心寺南会所にて実施
- ・12月10日（土）、17日（土）、24日（日） 一心寺南会所にて実施
- ・2月4日（土）、18日（土）、25日（土） 一心寺南会所にて実施

### 【里親登録後研修（里親等スキルアップ研修）】

- ・9月14日（水） 13：30～16：00 会場：一心寺南会所  
『愛着障害・発達障害のこどもの里親養育』  
～生活支援・家庭復帰支援・自立支援を考える～  
講師：関西大学 福田 公教 氏
- ・11月24日（木） 13：00～16：00 会場：一心寺南会所  
『退所後支援の現状と今後の課題について』  
講師：法律事務所 豊凜 弁護士 林 慶行 氏

【会場】5組6名

【オンライン】13組20名

【会場】5組8名

【オンライン】11組17名